

令和 5 年 6 月 28 日現在

機関番号：32712

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2020～2022

課題番号：20K12440

研究課題名(和文)屋外遊園地の経営・マーケティング研究 - 5市町村の施設による比較研究 -

研究課題名(英文)How Japanese local amusement park will survive? - A comparative study with five cases-

研究代表者

竹田 育広 (TAKEDA, YASUHIRO)

横浜商科大学・商学部・教授

研究者番号：60329068

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、5つの地方都市の遊園地を対象に「屋外遊園地はどうやって生き残っていけばよいのか」という問いに取り組んだ。3年間の研究は、コロナ禍で進めていくこととなった。しかし、本研究の調査対象施設(遊園地)は、厳しい環境に置かれているものの独自の工夫で難局を乗り切った。本研究はその過程を共にし、その研究成果を次の4点に整理する。すなわち(1)学術的成果としての遊園地の今後の成長を分析するための遊園地利用者の回遊行動パターンモデルの作成、(2)ビジネスマッチング、(3)実証実験、(4)オーバーツーリズム対策および観光プロモーションである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

屋外遊園地の経営・マーケティングを体系的にまとめた研究成果が少ないことから、本研究がその貢献に寄与するものとする。あわせて、地方の屋外遊園地を研究することの社会的意義は、地域経済の維持・発展および地域での健全な暮らしにとって遊園地施設は欠かせないという点にある。

研究成果の概要(英文)：This research had analyzed the question, "How should outdoor amusement parks survive?" Three years of research was decided to proceed due to the COVID-19. However, although the facilities (amusement parks) investigated in this research were placed in a harsh environment, they overcame the difficulties with their own ingenuity. This research organizes the research results into the following four points. Namely, (1) development of amusement park visitor behavior pattern model for analyzing the future growth of amusement parks as an academic achievement, (2) business matching, (3) demonstration experiment, and (4) countermeasures against overtourism. and tourism promotion.

研究分野：観光学、商学

キーワード：屋外遊園地 価値創造 ビジネスモデル 観光資源 地域活性化

## 様式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

### 1. 研究開始当初の背景

本研究の開始時点での背景として、一つは、屋外遊園地は1980年代から現在に至るまで衰退市場局面にあること、もう一つは、屋外遊園地のなかでも売上下位・地方中小都市の施設は経営実態が明らかになっていないことから経営・マーケティング研究が継続的に行われてこなかったことである。これらに加え大型の遊園地でも閉園・廃業していく時代でもある。

こうした背景のもと、本研究は、売上下位・地方中小都市施設はどのようにして集客と収益を安定すべきかという着想から研究を立ち上げることに至った。

さらに、研究準備段階での地域への取材活動を続けていくなかで、存続危機にはあるが、実はまだ地域での存在意義を持ち続け、意欲的な取り組みを繰り返し続けている遊園地があることが明らかとなってきた。

なお、研究開始年（2020年）は、新型コロナウイルスが感染拡大し、生活・社会への大きな変化がみられ、遊園地はさらなる存続危機にさらされることとなった。

### 2. 研究の目的

本研究は、「屋外遊園地はどうやって生き残っていけばよいのか」という問いに対して、一般的な経営・マーケティングの手法である「市場分類」「外部環境変化」「ビジネスモデル」「市場開発と価値創造に向けた戦略」の分析を行う。特に、これまで研究の対象となつてこなかった売上下位、地方中小都市に立地する5市町村の施設（図表1）の施設に焦点を当てている点を独自性を持ち、その独自対象に対して基本的なマーケティング戦略、経営戦略の分析ツールを用いて分析することで、地方の屋外遊園地の新たな成長モデルを提示するとともに、遊園地経営理論の一般化に貢献することを本研究の目的とする。

図表1 5市町村の対象施設

対象施設	市町村	施設の立地特性	施設の事業特性
A	太宰府市	地方中枢都市近郊立地	沿線需要開発型
B	淡路市	観光地立地	指定管理方式
C	魚津市	地方小都市立地	指定管理方式
D	宮津市	観光地立地	民間経営
E	阿賀野市	地方小都市立地	民間経営

### 3. 研究の方法

本研究では、原則として年度ごとに5市町村の対象施設に対する定点調査（ヒアリングを含む）を実施した。ならびに、対象施設周辺の観光資源、および周辺市町村や観光地への実地調査を行った。

### 4. 研究成果

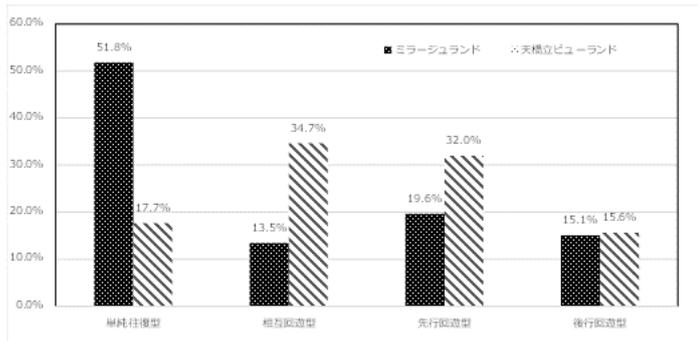
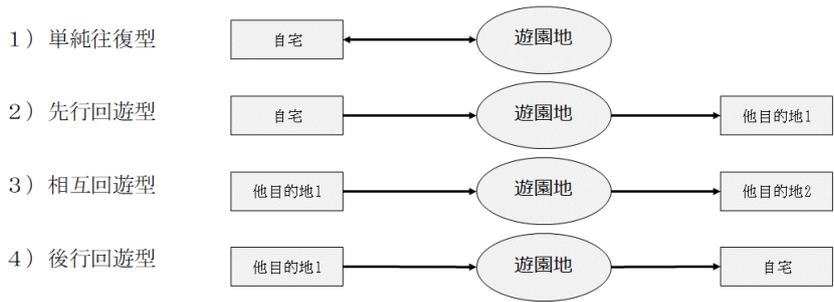
本研究課題による研究成果の要点を図表とともに整理する。

#### （1）遊園地利用者の回遊行動パターンモデル（図表2）

屋外遊園地の経営理論の一般化に関する研究には、大きく3つの課題がある。すなわち、第1の課題は立地特性と事業特性による屋外遊園地の区分に関する課題、第2の課題は遊園地の遊戯施設の導入と遊戯施設・機械メーカーの経営実態に関する課題、そして第3の課題は集客対策と周辺観光関連施設へのエリア回遊に関する課題である。遊園地利用者の回遊行動パターンモデルは、第3の課題に対しての解決に向けた一つの糸口になるモデルである。その背景には、観光学では、出発地から観光地までの移動をあらゆる観光基本距離と観光地での滞在時間との間は、比例関係があることが知られていて、目的地での滞在時間と観光消費支出の増加に結び付く新たな視点と観光価値の創出が地域観光の活性化には求められていることがある。

このように地域の回遊性向上は、地方遊園地の今後の成長モデルを考えるうえでも参考となるモデルである。回遊行動パターンは、ある地域内の回遊拠点に向けて、①単純往復型（自宅から遊園地に移動し、そのまま自宅へ移動する直線移動するパターン）、②先行回遊型（まず自宅を出て遊園地に訪問し、その後どこかに次の目的地に行くパターン）、③相互回遊型（通過型とも呼べ、つまり自宅を出て訪問直前に他の目的地に寄り、その途中で遊園地訪問があり、その後他の目的地に行くパターン）、④後行回遊型（旅の最後に遊園地を訪問して自宅に帰るというパターン）である。このモデルを用いて、宮津市と魚津市の施設を対象にアンケート調査を行った。

図表2 遊園地利用者の回遊行動パターンモデル

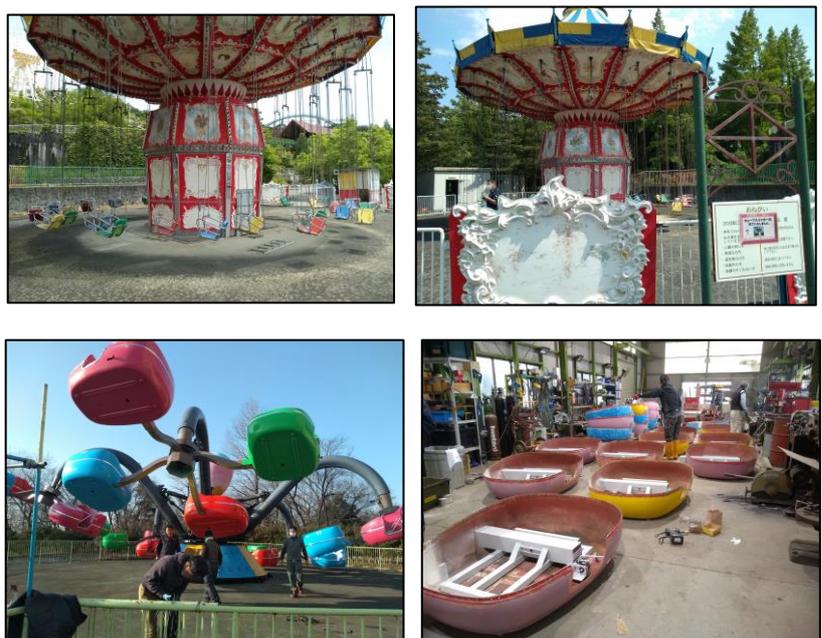


出典) 竹田 (2023) 「屋外遊園地利用者の訪問前後の回遊行動に関する一考察—京都府宮津市と富山県魚津市の小規模遊園地の事例から—」

(2) ビジネスマッチング・業界発展 (図表3)

本研究課題を遂行する過程で、地方遊園地と遊具機械メーカーおよび関連企業とのマッチング活動を行った。具体的には、新潟県阿賀野市のサントピアワールドの経年劣化した遊具リニューアルである。遊園地経営にとって遊具の更新は欠かせないものであるが、旧式の遊具は部品供給も終了していることが多く、修繕が難しい状況にあるものが多く、修理できる会社も少ない。こうした状況から、地方遊園地の遊具改修の需要と遊具メーカーが持つ技術とをマッチングさせ地方遊園地の存続を保つことに取り組み、一定の成果を得た。

図表3 ビジネスマッチング—故障遊具の改修



出典) 筆者撮影

(3) 実証実験 (図表 4)

阿賀野市内に点在する観光魅力拠点をつなぎ周遊する「あがのばす with やさいバス」の実証実験運行事業を、観光庁「既存観光拠点の再生・高付加価値化推進事業」を活用して実施した。この企画は、本研究がベースとなって企画発案されたもので、阿賀野市内のそれぞれの魅力拠点の訪問者を周遊バスでつなげ、新潟市民のマイクロツーリズム需要を獲得し、阿賀野市内の観光回遊性を高めることを狙いとした。さらに、周遊バスの停留所となる観光拠点の選定に本研究の成果が活かされている。

図表 4 あがのばす実証実験

あがのばす <https://aganobus.com/>

あがのばす実証実験 3つのポイント

- ① 観光周遊バスとやさいバスの2つの機能(貸客混載機能)を合わせもつ新潟初の新サービス
- ② サブスクリプション型サービスを開発(デジタルチケットの購入・利用)
- ③ コロナ禍での新潟市、新潟県民のマイクロツーリズム需要を誘致する狙い

あがのばす1日周回回数券チケット (大人1名分)  
有効期間: 2022/01/08  
有効中

サトビファーム (あがのばす出発点)

あがのばす

ヤスダヨーグランド (ヤスダヨーグランド)

村杉産業 養生館

巨勢野神社 (あさいのじんじや)

出典) 筆者作成

(4) オーバーツーリズム対策と観光PR (図表 5)

太宰府市の施設では、2020年のコロナ蔓延初期では、太宰府市2021年度の利用者が大きく減少してはいるものの、入場者の回遊行動状況調査の回答率が低く実態がなかなかつかめていないことが課題としてある。一方、人気アニメから話題となった竈門神社へのアクセス方法について当施設に質問に来る旅行者がいるということから、当施設から竈門神社までのアクセスマップを作成した。この作成のねらいは、太宰府市内の交通混雑の回避、竈門神社周辺の混雑回避、そして当施設への認知度向上と入園者増にある。

図表 5 だざいふ遊園地から竈門神社までの近道マップ

近道マップ(だざいふ遊園地⇒竈門神社 徒歩約20~25分)

!! 多くは週末・祝日は、竈門神社までの道路が混雑します!!

太宰府市エリア回遊状況調査を行っています。1,2分程度で終わるものです。ご協力をお願いします。  
←QRコードをスマートフォンで読み取ってください。

出典) 筆者撮影 (写真)、筆者作成 (マップ)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 竹田 育広	4. 巻 10
2. 論文標題 屋外遊園地利用者の訪問前後の回遊行動に関する一考察 - 宮津市と魚津市の事例から -	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 余暇ツーリズム学会誌	6. 最初と最後の頁 73 - 82
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 竹田 育広
2. 発表標題 遊園地利用者の訪問前後の移動回遊パターン - 宮津市と魚津市の事例から -
3. 学会等名 余暇ツーリズム学会第10回全国大会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

未来に効く、商学プログラム - こんなものまで、研究テーマ！ <a href="https://www.shodai.ac.jp/education/charm/">https://www.shodai.ac.jp/education/charm/</a>
---

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------